

SIDR 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

週報 平成 27 年(2015 年)第 47 週 (11 月 16 日~11 月 22 日)

発行年月日:平成 27 年(2015 年)11 月 27 日
 発行:滋賀県感染症情報センター
 滋賀県衛生科学センター 健康科学情報担当
 電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548
 e-mail:eh4505@pref.shiga.lg.jp

- 1) 小児科定点から報告数が多かった感染症は、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎および RS ウイルス感染症
- 2) 感染性胃腸炎は、全県で増加、草津、甲賀、東近江および長浜保健所管内で増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して高い値
 - ・ 大津市、草津および長浜保健所管内では他保健所管内よりも多く報告
- 3) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全県で増加、甲賀、東近江、彦根および長浜保健所管内で増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して「最も」高い値
 - ・ 大津市、草津、甲賀および高島保健所管内で多く報告
- 4) RS ウイルス感染症が全県で増加、全ての保健所管内で横ばいもしくは増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して高い値
 - ・ 甲賀、東近江および高島保健所管内で多く報告
- 5) 梅毒の報告数は、感染症法が施行された平成 11 年以降で最も多かった平成 12 年(11 例)の同時期と同数

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 47 週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 1例	無症状病原体保有者(50歳代女性)
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 1例	O157VT1VT2(10歳代男性)
	四類感染症	報告なし	
	五類感染症	梅毒 2例	早期顕症梅毒 I 期(50歳代男性、異性間性的接触)、早期顕症梅毒 II 期(50歳代男性、異性間性的接触)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例	80歳代女性
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例	G群(90歳代女性)
第 46 週以前の診断例(*)	五類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症 1例	30歳代女性

(*)平成27年 第 1 週以降に診断され平成27年第 47 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 27 年第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し掲載しています。

分類	疾患	滋賀県								保健所別(47週)				平成27年累計		平成26年累計**	
		46週	47週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国			
二類	結核	8	1	0	0	0	1	0	0	0	195	21,341	229	25,780			
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	1	148	1	158				
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	0	0	0	0	1	0	43	3,418	86	4,131				
四類	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	1	176	0	151				
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	2	223	2	432				
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57	0	61				
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	0	1	267	0	340				
	レジオネラ症	1	0	0	0	0	0	0	0	26	1,424	16	1,236				
五類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	8	977	12	1,120				
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	1	225	0	226				
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症***	0	1	0	0	0	1	0	0	12	1,483	5	313				
	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	3	443	1	459				
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	3	162	0	178				
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	0	0	0	1	0	0	15	382	6	273				
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1,260	9	1,518				
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71	1	68				
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	213	4	196				
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	29	2,006	19	1,777				
	水痘(入院例)**	0	0	0	0	0	0	0	0	2	261	1	137				
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	37				
	梅毒	1	2	0	0	0	0	0	1	1	10	2,272	7	1,661			
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	2	102	0	35				
	破傷風	1	0	0	0	0	0	0	0	2	107	1	126				
	風しん	1	0	0	0	0	0	0	0	4	150	0	321				
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9				
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	2	232				

※ :平成27年1月現在の暫定数

※ ※ 平成26年9月19日より全数把握対象の五類感染症に追加

3. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

感染症法で定められている五類感染症のうち、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。

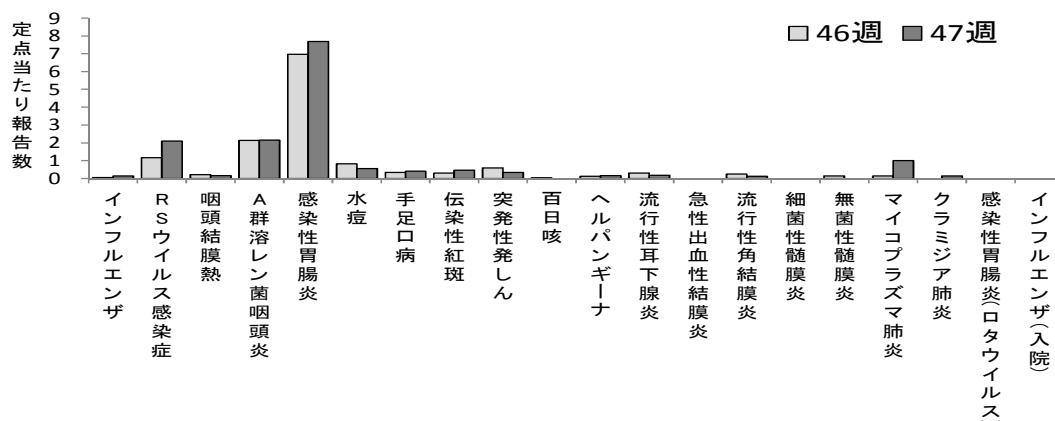
警報: なし

注意報: なし

滋賀県の定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超えた場合および定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令します。

- 1) 小児科定点から報告数が多かった感染症は、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎およびRSウイルス感染症です。
- 2) 感染性胃腸炎は、全県で増加、草津、甲賀、東近江および長浜保健所管内で増加しました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
 - ・ 大津市、草津および長浜保健所管内では他保健所管内よりも多く報告されています。
- 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全県で増加、甲賀、東近江、彦根および長浜保健所管内で増加しました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して「最も」高い値を示しています。
 - ・ 大津市、草津、甲賀および高島保健所管内で多く報告されています。
 - ・ 3歳(20%)、5歳(16%)および6歳(13%)に多く報告されています。
- 4) RSウイルス感染症が全県で増加、全ての保健所管内で横ばいもしくは増加しました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
 - ・ 甲賀、東近江および高島保健所管内で多く報告されています。
 - ・ 2歳以下で99%が報告されています。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

週単位(月曜日から日曜日)で報告される定点把握対象感染症の、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数)。

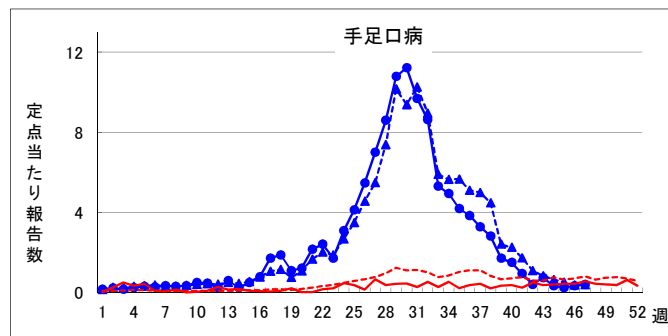
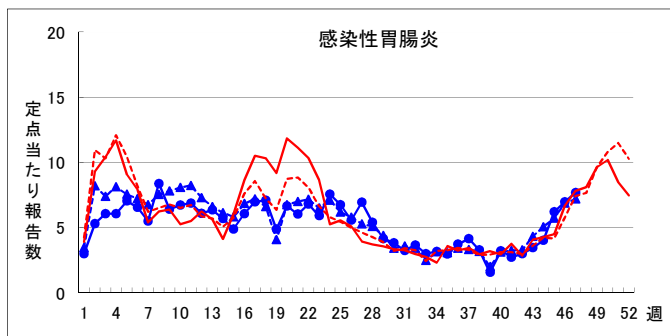
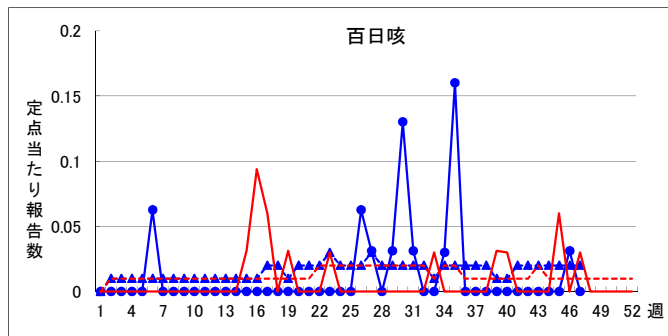
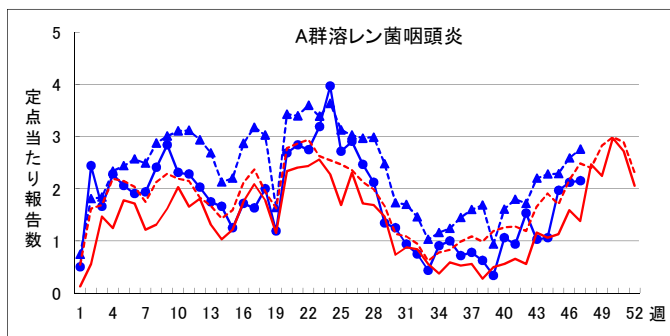
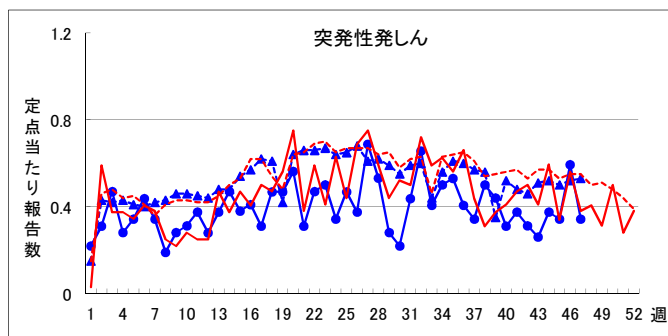
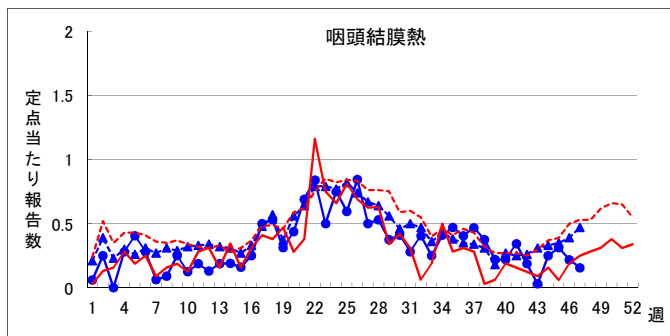
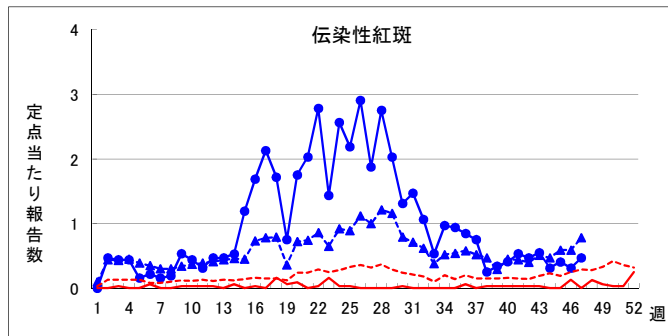
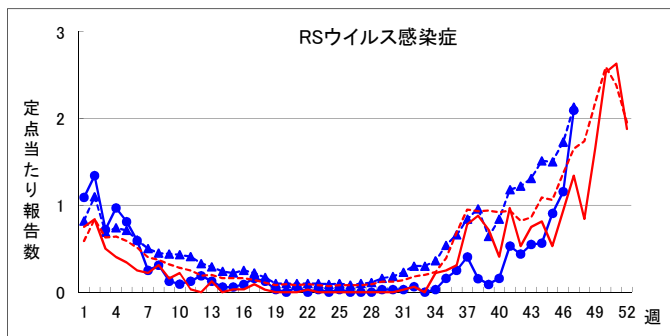
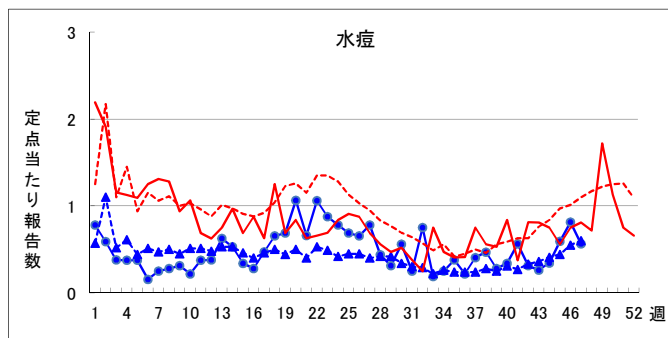
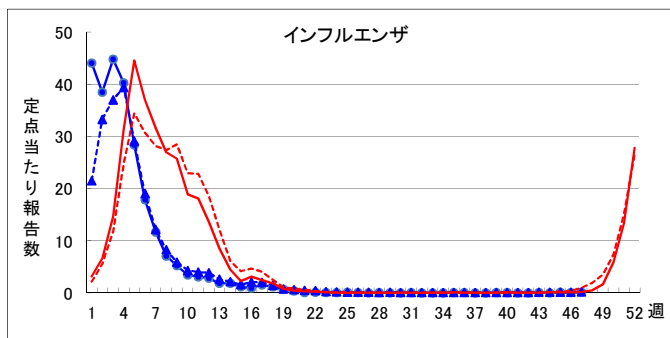
定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(47週)						
		46週	47週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0.06	0.13	0.45	0	0.29	0	0	0	0
小児科 (32)	RSウイルス感染症	1.16	2.09	1.00	1.17	2.50	4.00	1.00	1.50	6.50
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.22	0.16	0.14	0.17	0	0.40	0	0	0.50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.13	2.16	3.00	2.50	2.75	2.00	0.75	1.00	2.50
	感染性胃腸炎	6.97	7.69	8.71	12.17	3.75	7.20	4.50	9.75	2.00
	水痘	0.81	0.56	1.00	0.67	0.50	0.60	0	0.50	0
	手足口病	0.34	0.41	0.43	0.67	0	1.00	0	0	0.50
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0.31	0.47	0.43	1.17	0.25	0.20	0.25	0.25	0.50
	突発性発しん	0.59	0.34	0.57	0.33	0	0.60	0	0.50	0
	百日咳	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	0.13	0.16	0	0	0	0	0	0.25	2.00
眼科 (8)	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.31	0.19	0.71	0	0	0.20	0	0	0
	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基幹 (7)	流行性角結膜炎	0.25	0.13	0	0	0	0	1.00	0	0
	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.14	1.00	2.00	0	3.00	1.00	0	1.00	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0.14	0	0	0	1.00	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ(入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

赤字: 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過
 紫字: 注意報レベルの基準値を超過

5-1. 疾病別定点当たり報告数

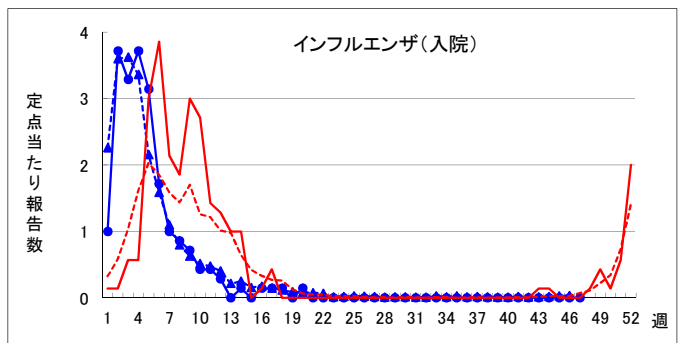
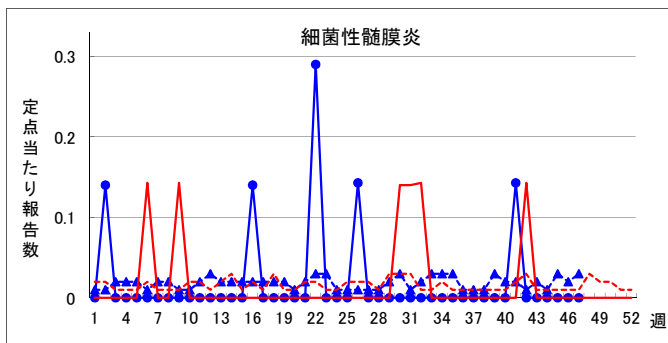
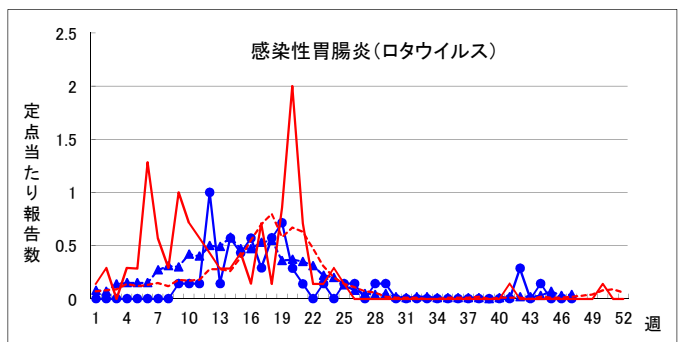
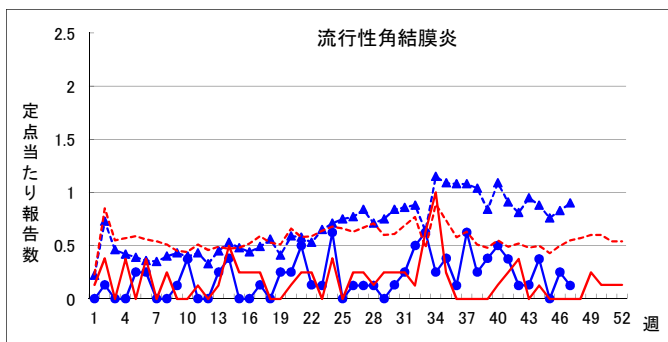
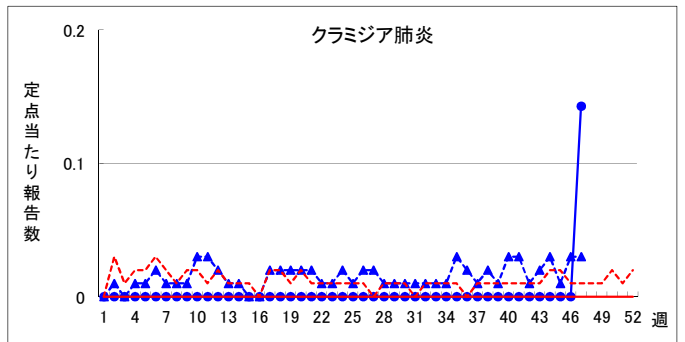
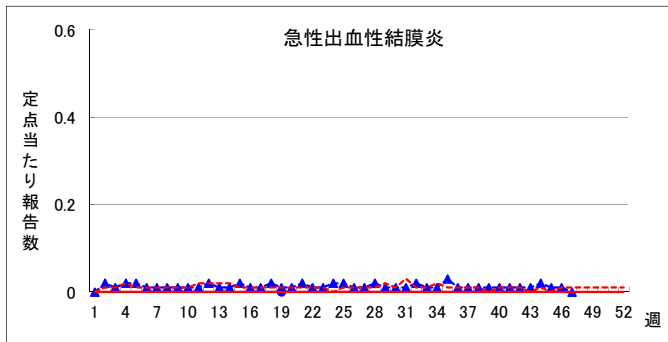
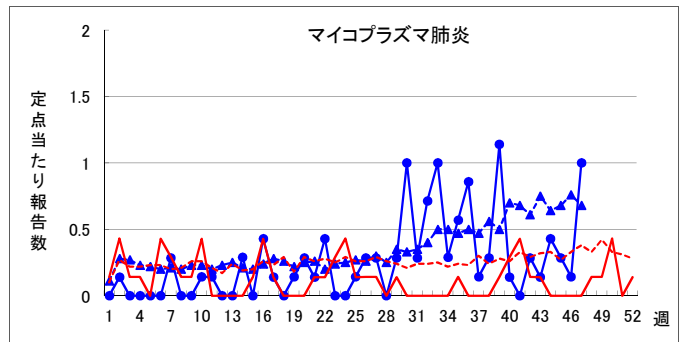
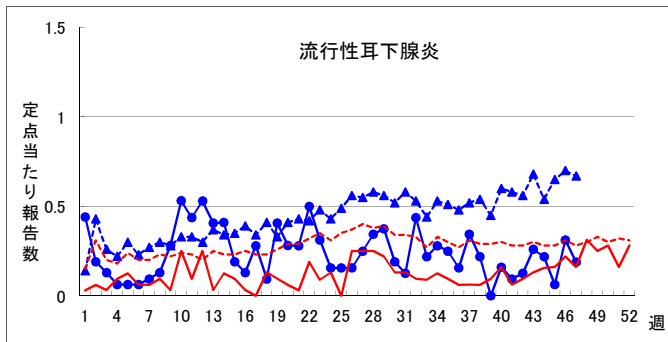
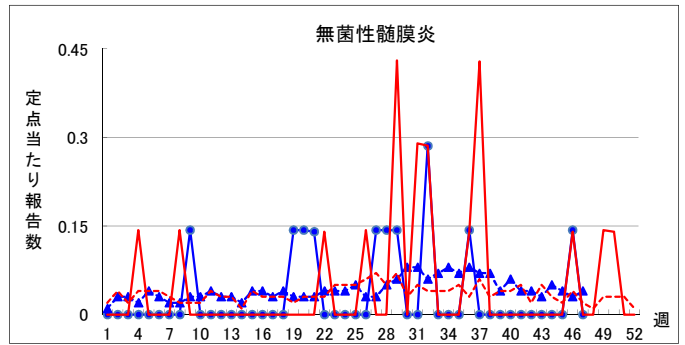
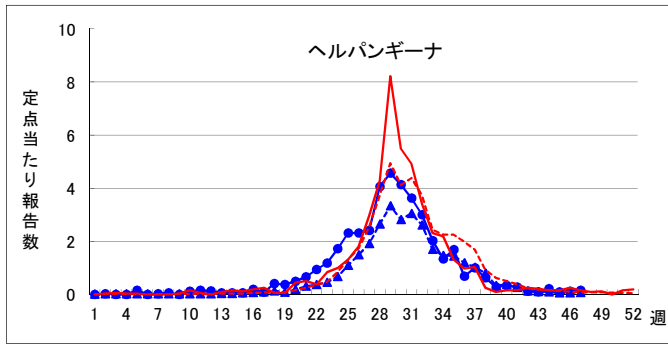
平成27年第47週

--- 平成26年 全国 — 平成26年 滋賀県
-▲- 平成27年 全国 —●— 平成27年 滋賀県



5-2. 疾病別定点当たり報告数 平成27年第47週

- - - 平成26年 全国 - 平成26年 滋賀県
 -▲- 平成27年 全国 -●- 平成27年 滋賀県



梅毒の発生動向 平成27年第1-47週

1. 国内では、多くの先進諸国同様に、男性と性交をする男性を中心に症例が報告される疾患
2. 滋賀県では
 - 平成27年第47週までの報告数は、感染症法が施行された平成11年以降で最も多かった平成12年（11例）の同時期と同数
 - 平成24年以降は、男女ともに報告数が継続的に増加（図1）
 - 症例は男女ともに20-40歳代に多いが、女性では20-30歳代の割合が高い（図2）
 - 男性の推定感染経路における異性間性的接触と同性間性的接触の報告数の比は9:7（平成22年第1週～平成27年第47週、図3）
 - 少なくとも平成18年以降に先天性梅毒の報告はない

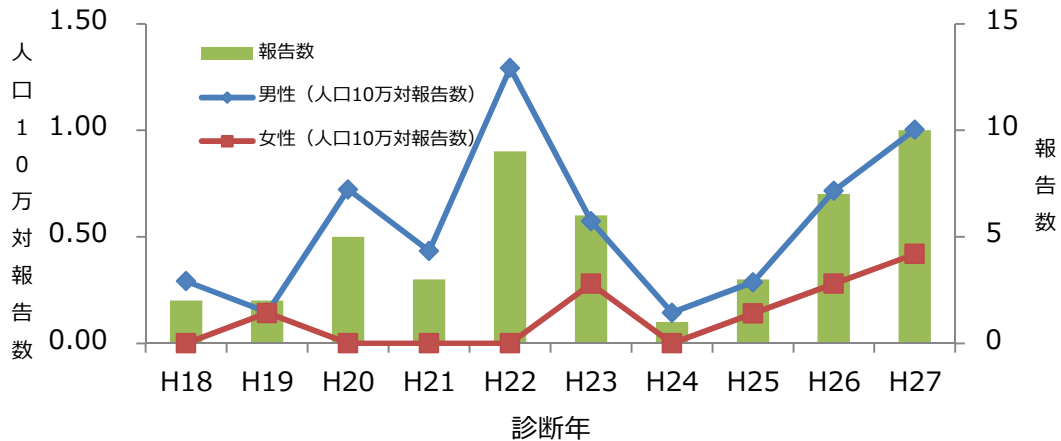


図1. 梅毒の発生動向（滋賀県、平成18年第1週－平成27年第47週）

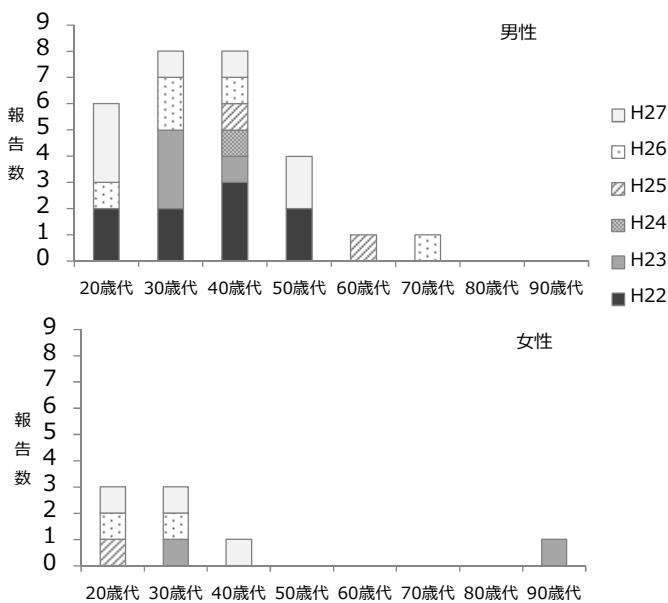


図2. 梅毒の年齢群別報告数（滋賀県、平成22年第1週-平成27年47週）

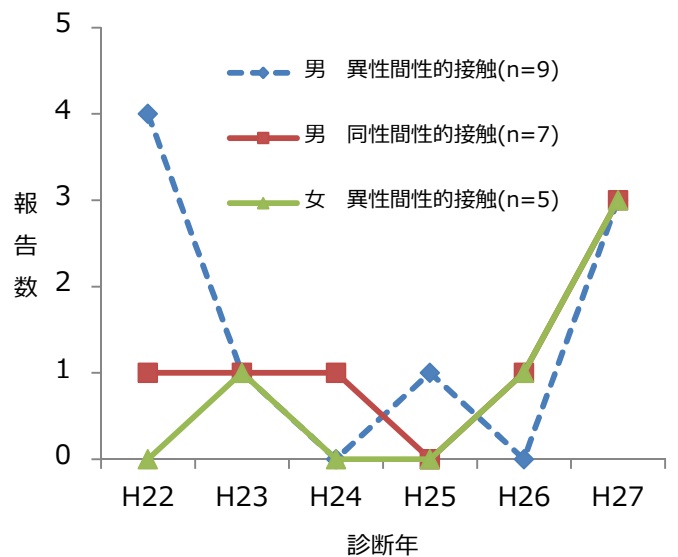


図3. 梅毒の感染経路別報告数（滋賀県、平成22年第1週-平成27年47週）